シンポジウム

土・水・火・空（そら）　を問う

…世界連邦都市　綾部から…

sora

空

火

水　土

平成26年（2014年）4月19日
午後3時30分～6時
綾部市並松町　綾部市民センター
中央ホール

主催　新日本研究所
協賛　綾部市世界連邦運動協会
綾部市市民憲章推進協議会
綾部市環境市民会議
綾部青年会議所
あやべ魅力の会
後援　あやべ市民新聞
エフエムあやべ

風

プログラム

○歓迎の挨拶　**山崎善也**綾部市長
○引き続き、シンポジウム

鎌田東二氏（京都大学こころの未来研究所センター教授）のコーディネイトで、4名のパネリストから「土・水・火・空を問う」主題に関して、多角度からの発表が行われ、開かれた地平で、さらに主題が掘り下げられてゆきます。

パネリストの**金子啓明**氏（興福寺国宝館館長・東京国立博物館名誉館員）は、2009年、あの「阿修羅展」の仕掛け人でした。**紀藤正樹**氏（弁護士・リンク総合法律事務所所長）は、マインドコントロールによって引き起こされる種々の事件に敢然と取り組み、テレビでもよく拝見します。当地の**四方八洲男**氏（前綾部市長・水源の里全国協議会顧問）は、市長退職後も多彩多方面で活躍中。日本研究所の長・**島薗進**氏（上智大学教授・東京大学名誉教授）は、宗教世界のみならず、福島原発問題などにも、研究者として深く関わり、社会的な発言を続けています。以上の4名のパネリストです。

午後6時閉会までの二時間半、途中での休憩時間はありませんので、各自適宜にお休みください。

○

今の時代に危機感を抱き、これをどうやって希望に満ちた未来に向けていくのか。　宗教学者、宗教家、芸術家、思想家、法律家、政治家、芸術家、経済人、科学者などが集まり、今回の綾部でのシンポジウムをきっかけに、《新日本研究会》（島薗進代表）が発足する運びとなりました。　「漠然とした不安」に苛まれ、若者に希望ある言葉を語りかける指導者の不足が、停滞感、倦怠感につながってしまっているのではないか、という思いで、宗教者や宗教学者が政治や社会に物を申していく、新たな挑戦です。　日本を代表する先生方が「綾部」の地を発足イベントの場所として選んでいただき、なぜ綾部で開催されるのか？そういったことにも言及いただけると思います。

（あやべ魅力の会　四方源太郎）

（昭和58年7月12日第3種郵便物認可）　（新聞定価月ぎめ税込み930円、1部売り75円）　あやべ市民

新日本研究所

19日にシンポジウム

土・水・火・空を問う

本社後援

人の心と自然の恵みを大切にする新しいヒューマニズムの再構築を考えよう―。芸術や科学、哲学、法律、経済などの様々な分野にかかわる有為な人たちでつくる「新日本研究所」（代表＝島薗進・上智大教授、東京大名誉教授）は19日、並松町の市民センター中央ホールで「土・水・火・空を問う」と題したシンポジウム（あやべ市民新聞社など後援）＝写真はチラシ＝を開く。

鎌田東二さん　金子啓明さん　紀藤正樹さん　四方八州男さん　島薗　進さん

世界連邦宣言の綾部で

新日本研究所は、日本の現状と将来に不安と憂いを持つ宗教家・松田妙子さんの呼びかけで設立に向けた準備が進められてきた。その設立記念を兼ねたシンポジウムを、日本で最初に世界連邦都市宣言した綾部で開催することになった。

今回のシンポジウムは、綾部世界連邦運動協会と市市民憲章推進協議会、市環境市民会議、綾部青年会議所、あやべ魅力の会の計5団体が協賛している。

シンポジウムは午後3時半から。パネリストは、宗教学者である島薗さんのほか、▽金子啓明さん（興福寺国宝館館長、東京国立博物館名誉館員）▽紀藤正樹さん（弁護士）▽四方八洲男さん（前綾部市長、水源の里全国協議会顧問）―の3人で、京都大学こころの未来研究センター教授の鎌田東二さんがコーディネーターを務める。終了は同6時の予定。

シンポジウムのタイトルは、1948年3月に発表された世界憲法予備草案（シカゴ草案）の中で、土地や水、空気、エネルギーが人類に欠くことができない「共有財産」と位置付けられていることにちなんでいる。

入場無料。問い合わせは、あやべ魅力の会事務局（☎090・1153・7423）へ。【細見仁史】

2014年（平成26年）　4月　2日　水曜日　第4467号

あやべ市民新聞社

●創刊

（株）両丹日日新聞社（本社・福知山市）と綾部の新生時報社、北都タイムス社が力を合わせて昭和58年2月1日、（有）あやべ市民新聞社（本社・大島町）を設立。発行エリアは京都府綾部市全域。全国に郵送もしている。

●発行部数

創刊時は約2,480部だったが、3カ月後には3,000部を突破。その後も毎年約1,000部平均で伸び続け、7年目の平成元年には市内の5軒に3軒の割合に当たる8,000部の大台を超え、現在もなお着実に紙勢を伸ばしている。

（毎週月・水・金曜夕刊）

あやべ市民新聞

発行所　あやべ市民新聞社

「人類の生存に必要欠くべからざる四大要素、土地・水・空気・エネルギーは、人類の共同の財産である。」（1948.3 世界連邦憲法　シカゴ草案の一節）

「月日と土の恩を知れ」（大本基本宣伝歌の一節）

「新日本研究所」の設立にあたって

現在の日本社会は、経済の低迷、教育の崩壊、政治の退廃、心の荒廃など問題が山積みです。そうした中、2011年3月11日に東日本大震災と原発事故が発生し、大きな悲しみと衝撃が日本国内ばかりでなく世界に伝わりました。この困難な状況のもとで、日本社会はどのようにすれば立ち直れるのか、その模索が始まっています。しかし、かつてのバブル経済とその後のデフレ不況を通じて、われわれは物質的な豊かさだけではこの社会が十分に機能しないことを体験しました。人の心を尊重する社会の重要性が改めて問われています。

日本には、自然を尊重し、それが人の心と親和するやさしい文化を築いてきた長い歴史があります。そのことをもう一度問い直し、人の心と自然の恵みを大切にする新しいヒューマニズムを再構築しながら、社会全体を考える必要性を痛感しています。

わたしたちは、こうした考えを深めるために芸術、科学、宗教、哲学、法律、経済等々にかかわる有為の人々が集まり、「新日本研究所」を設立いたしました。

「新日本研究所」では、会員がそれぞれの立場から、さまざまな提案を行い実行に移すことで、相互の信頼とつながりを深めることができればと思います。「新日本研究所」は既存の組織とは異なり、信頼という人間関係を支えとする運動体として機能できることを願っています。

2014年3月吉日

新日本研究所

代表　島薗　進（上智大学教授・東京大学名誉教授）
副代表　金子啓明（興福寺国宝館館長・東京国立博物館名誉館員）
委員　鎌田東二（京都大学こころの未来研究センター教授）
委員　新実徳英（作曲家・桐朋学園大学院大学教授）
委員　紀藤正樹（弁護士）
委員　松田妙子（宗教家）

〒108-0074　東京都港区高輪4-8-9 りぶ高輪601